

平成22年度「生涯学習施策に関する調査研究」 社会教育施設の利用者アンケート等による効果的社会教育施設形成 に関する調査研究

報告書 2011年3月

MRI 株式会社三菱総合研究所

人間・生活研究本部 人材・教育グループ

1	調査の概要	2
1-1	調査の目的と方法	2
2	調査結果の概要	3
2-1	公民館の認知度と使用頻度	3
2-2	公民館利用者の特徴	4
2-3	公民館の効果的な活用に向けて	5
3	調査結果	7
3-1	公民館の認知度	7
3-2	公民館の使用頻度	8
3-3	公民館利用者の学習内容・動機	10
3-4	公民館に対する要望	12
参考	事例自治体における調査結果	14

1 調査の概要

1-1 調査の目的と方法

調査の目的と方法は、以下のとおりです。

(1) 目的

社会教育については、社会教育調査により社会教育施設が提供するものについての基礎的な情報を把握していますが、「利用者側」の情報については把握できていません。

学習機会が多様化する中で、従来、地域住民の教養の向上、生活文化の振興及び教育普及活動等、地域の社会教育の中心としての役割を担ってきた社会教育施設等（公民館、生涯学習センター、図書館、博物館）の役割を再検討するためには、住民の認知度、学習参加率・参加頻度等の現状について把握することが必要です。さらに、行政側が意図して実施する施策と住民側の社会教育施設・社会教育指導者に対するニーズを比較分析することが求められています。

また、地域の社会がますます複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化する中で、学校だけが様々な課題に対して役割と責任を負うのではなく、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育て体制を整備する中、学校教育（小中学校）と社会教育の連携が今後ますます重要となっています。

本調査は、地域において社会教育施設が提供する学習機会の現状を把握するとともに、社会教育施設に対する住民のニーズ（潜在的なニーズも含む）を踏まえて、今後の社会教育施設のあり方について検討することを目的として実施するものです。

(2) 方法

地域を大都市（30万人以上）／中小規模都市（3～30万人）／農山漁村（3万人未満）に分類し、各地域の住民について、WEBアンケート調査により学習状況及びニーズを把握しました。サンプル構成は、以下のとおりです。

地域分類	男性			女性			合計
	20～39歳	40～59歳	60歳以上	20～39歳	40～59歳	60歳以上	
大都市群	67	67	67	67	67	67	402
中小規模都市群	67	67	67	67	67	67	402
農山漁村群	67	67	67	67	67	67	402
計	201	201	201	201	201	201	1206

(3) 調査項目

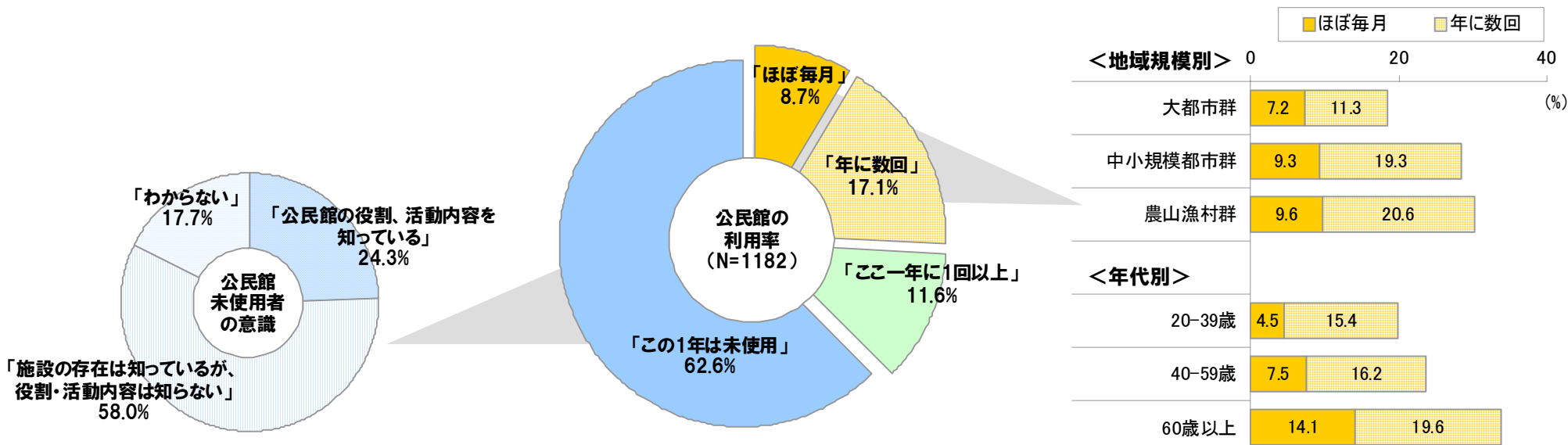
分類	項目
学習の状況	学習内容、場所、頻度、時間、理由、成果の活用、今後学習したい内容 など
社会教育施設等の認知度や使用状況、ニーズ	社会教育施設の認知度及び使用頻度、社会教育施設・スタッフへの要望 など
自治体との関係	学習に関する自治体への相談状況、学習に関する情報入手方法 など

2 調査結果の概要

2-1 公民館の認知度と使用頻度

公民館の認知度と使用頻度は、以下のような関係にあることがわかりました。

- ☑ 公民館の認知度は39.8%（詳細は7ページ参照）で、年に数回以上利用している住民の割合は、25.8%です（ほぼ毎月利用している住民は8.7%）。
- ☑ また、「ここ一年以内に1回以上使用したことがある」が非常に少ない（11.6%）点が特徴です。
- ☑ 規模の小さな地域ほど、また、年齢が高いほど、認知度や利用率が高くなっています。
- ☑ 公民館を利用しない住民のうち、公民館について「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」と回答した住民が24.3%でした。特に、60歳以上で多く、36.2%でした。
- ☑ 公民館を利用しない住民のうち、公民館について「施設の存在は知っているが、役割・活動内容は知らない」と回答した住民が58.0%でした。特に、20-39歳で多く、60.8%でした。



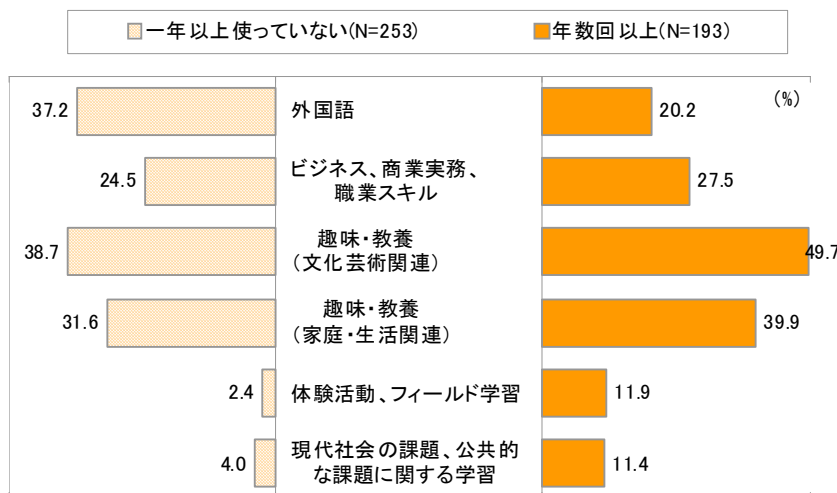
2 調査結果の概要

2-2 公民館利用者の特徴

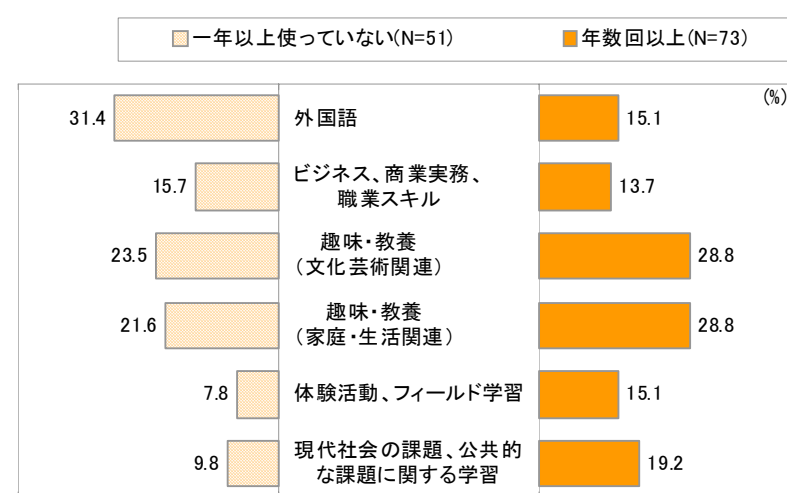
公民館利用者は、学習内容や学習理由について、以下のような特長がありました。

- ☑ 公民館利用者は、非利用者と比較して、様々な内容において学習者が多い傾向があります。
- ☑ 特に、「趣味・教養（文化芸術関連）」、「趣味・教養（家庭・生活関連）」、「体験活動、フィールド学習」、「現代社会の課題、公共的な課題に関する学習」については、その傾向が顕著です。
- ☑ 一方、「外国語」については、非利用者のほうが、学習者の割合が高くなっています。
- ☑ また、公民館利用者は、非利用者と比較して、学習の理由として「周りの人、地域、社会に役立てたい」をあげる人が多いという特徴があります。
- ☑ 特に、「趣味・教養（家庭・生活関連）」と「現代社会の課題、公共的な課題に関する学習」の学習理由について、その傾向が顕著です。

公民館利用者と非利用者の学習内容



「周りの人、地域、社会に役立てたい」と考えている住民の学習内容

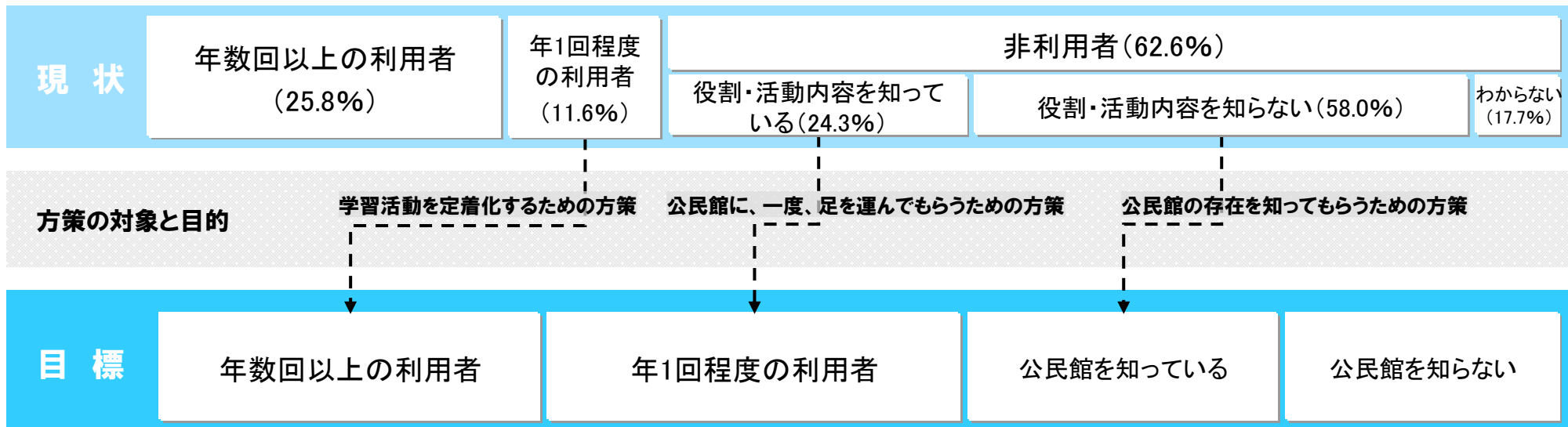


2 調査結果の概要

2-3 公民館の効果的な活用に向けて

公民館の効果的な活用に向けては、以下のような視点で方策を検討することが重要です。

- ☑ 今回の調査から、公民館を利用していない住民の中には、公民館の役割や活動内容を知っているのに利用しない住民がいること、また、公民館を年に1回程度利用する住民が非常に少ないことなどがわかりました。
- ☑ 公民館の効果的な活用に向けた方策を検討する際は、「全体的に認知度や使用頻度を高める」のではなく、対象ごとのニーズを整理し、それぞれに必要な方策を検討することが不可欠です。
- ☑ 公民館の活用方策の検討に向けた、基本的な考え方は、下図のとおりです。

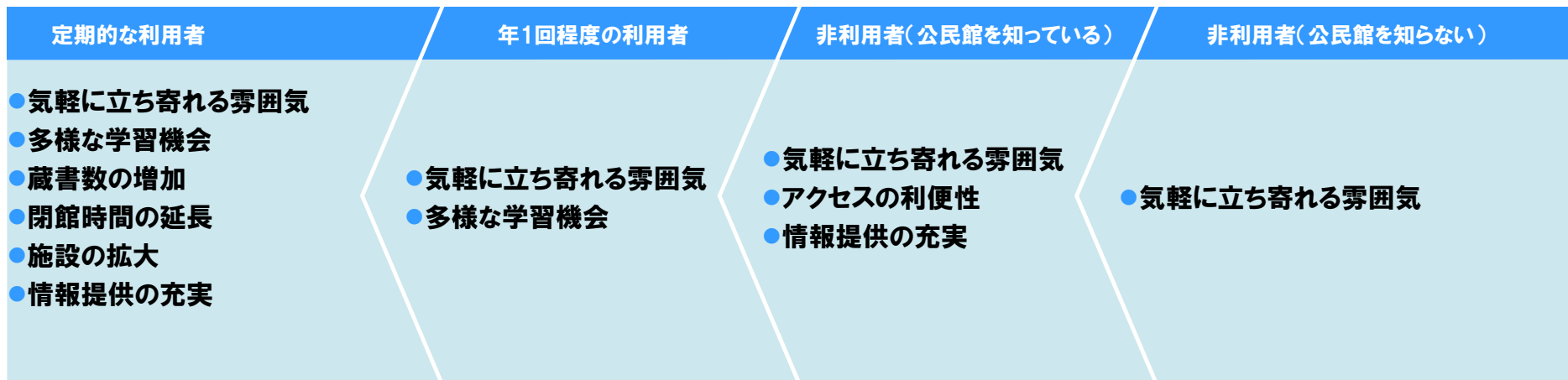


2 調査結果の概要

2-3 公民館の効果的な活用に向けて

公民館の認知度や使用頻度に応じた、住民の要望は以下のとおりです。

- ☑ 「公民館の役割や活動内容を知らずに、利用していない住民」は、公民館に対して、特に、気軽に立ち寄れる雰囲気을求めていることがわかりました。
- ☑ 「公民館の役割や活動内容を知っているにもかかわらず、利用していない住民」は、公民館に対して、気軽に立ち寄れる雰囲気、アクセスの良さ、情報提供の充実を求めていることがわかりました。
- ☑ 「公民館を年に1回程度利用している住民」は、公民館に対して、気軽に立ち寄れる雰囲気、多様な学習機会の提供を求めていることがわかりました。
- ☑ 「公民館を年数回以上利用している住民」は、気軽に立ち寄れる雰囲気、多様な学習機会の提供、蔵書数の増加、閉館時間の延長、施設の拡大、情報提供の充実等、様々なことを求めていることがわかりました。

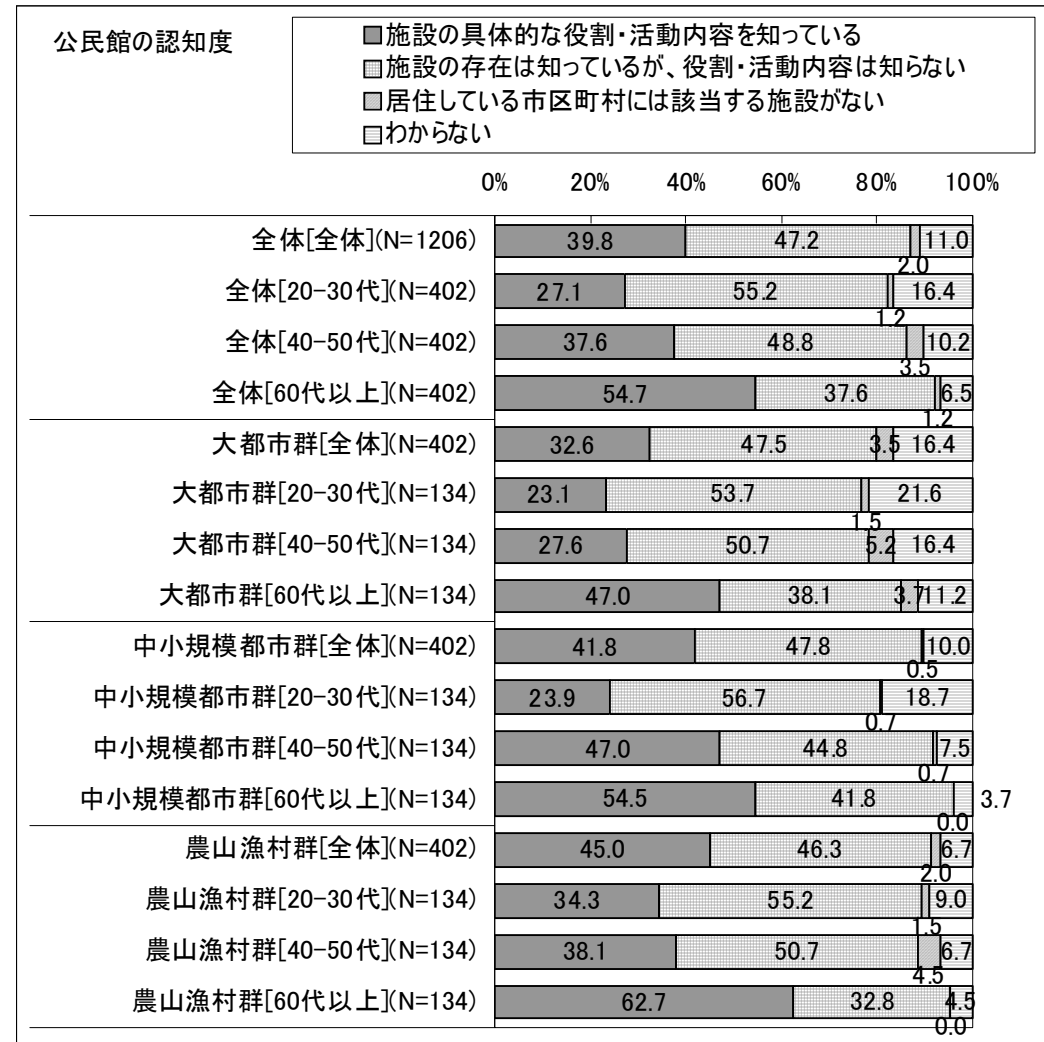


3 調査結果

3-1 公民館の認知度

公民館の認知度は、右図のとおりです。

- 全体では、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」と回答した住民の割合は、39.8%でした。
- 年齢別にみると、20-30代は27.1%、40-50代は37.6%、60代以上は54.7%となっており、年齢が高いほど認知度が高くなる傾向がみられました。
- 地域規模別にみると、大都市群が32.6%、中小規模都市群が41.8%、農山漁村群が45.0%となっており、地域規模が小さいほど認知度が高くなる傾向がみられました。
- 各地域規模内でみても、年齢が高いほど認知度が高くなる傾向にあり、農山漁村群の60代以上では、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」と回答した住民の割合は、62.7%でした。

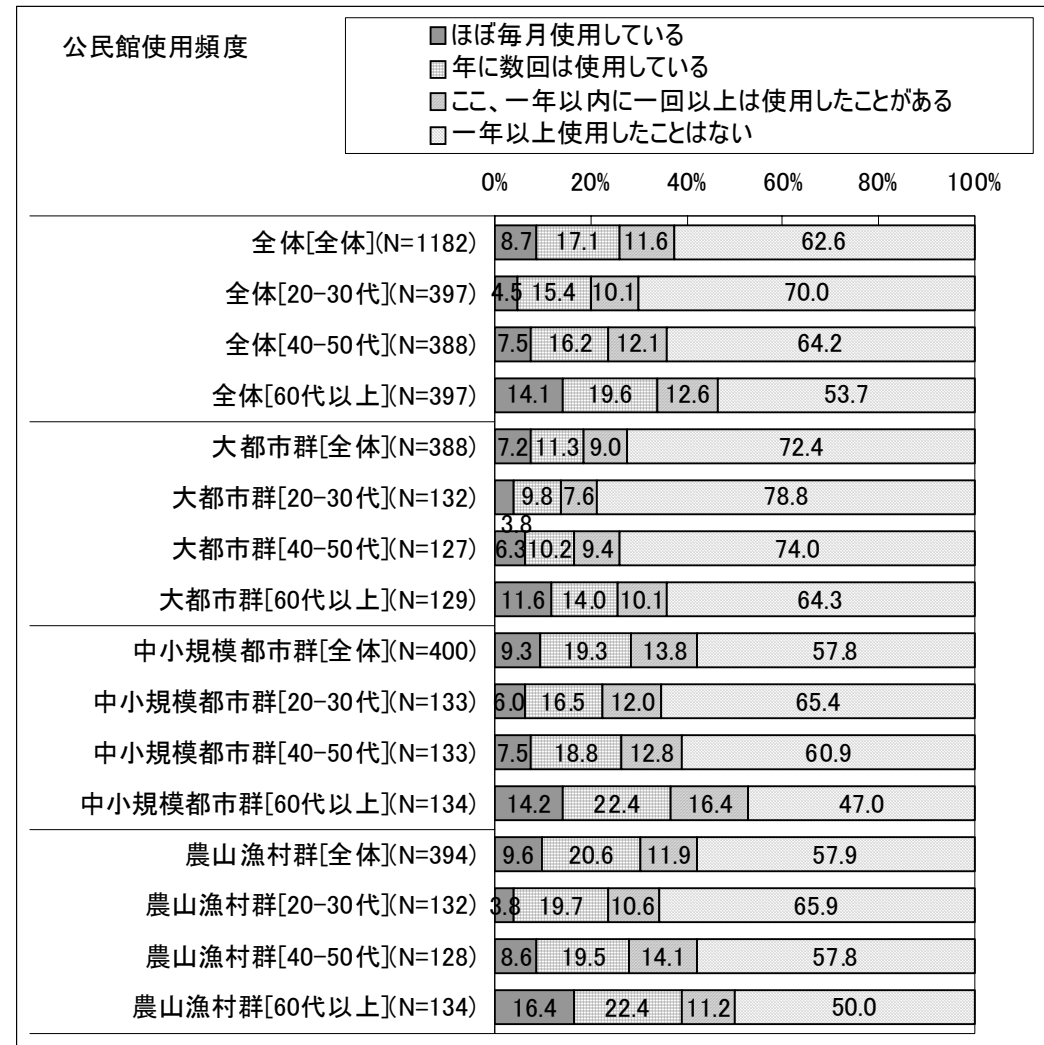


3 調査結果

3-2 公民館の使用頻度

公民館の使用頻度は、右図のとおりです。

- 全体では、「ほぼ毎月使用している」と「年に数回は使用している」と回答した住民の割合の合計は、25.8%でした。
- 年齢別にみると、20-30代は19.9%、40-50代は23.7%、60代以上は33.7%となっており、年齢が高いほど使用頻度が高くなる傾向がみられました。
- 地域規模別にみると、大都市群が18.5%、中小規模都市群が28.6%、農山漁村群が30.2%となっており、地域規模が小さいほど使用頻度が高くなる傾向がみられました。
- 各地域規模内でみても、年齢が高いほど使用頻度が高くなる傾向にあり、農山漁村群の60代以上では、38.8%でした。



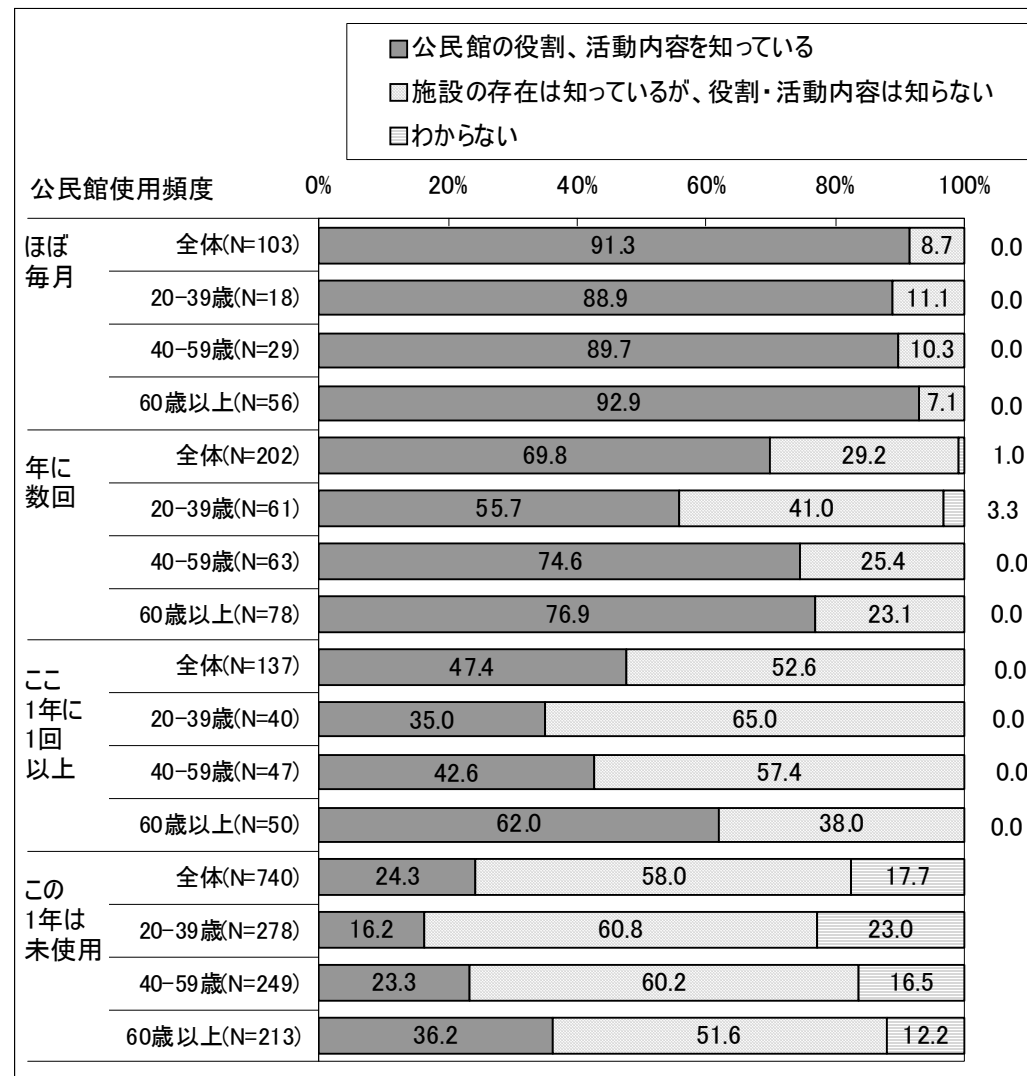
* 認知度に関する質問で、「居住する市区町村には該当する施設がない」と回答した者は除いて集計した。

3 調査結果

3-2 公民館の使用頻度

公民館の認知度と使用頻度の関係は、右図のとおりです。

- 公民館をほぼ毎月利用している住民は、9割以上が「公民館の役割、活動内容を知っている」と回答しています。
- 公民館をこの1年は使用していない住民のうち、「公民館の役割、活動内容を知っている」と回答したのは24.3%でした。年齢が高くなるほどこの割合も高くなり、60歳以上では、36.2%でした。
- 公民館をこの1年は使用していない住民のうち、「公民館の存在は知っているが、役割・活動内容は知らない」と回答したのは58.0%でした。年齢が低いほど、この割合は高くなり、20-30代では60.8%でした。

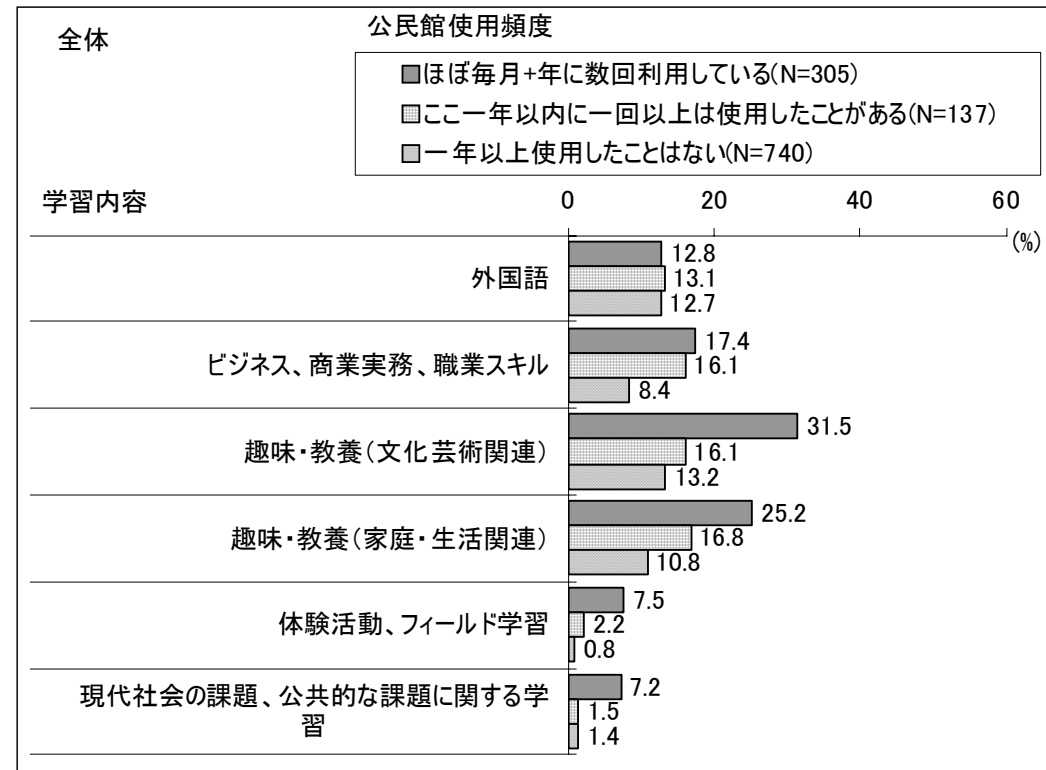


3 調査結果

3-3 公民館利用者の学習内容・動機

公民館の使用頻度別にみた、住民の学習内容は、右図のとおりです。

- 公民館を年に数回以上利用している住民の学習内容は、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く31.5%、次いで、「趣味・教養（家庭・生活関連）」の25.2%でした。
- 公民館を一年以上使用したことがない住民の学習内容は、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く13.2%、次いで、「外国語」の12.7%でした。
- 「現代社会の課題、公共的な課題に関する学習」については、公民館の使用頻度が高いほど、学習者の割合が高い傾向がみられました。
- また、多くの項目で、公民館の使用頻度が高いほど学習者の割合が高くなっており、公民館利用者は多様な内容について学習をしていることがわかります。



3 調査結果

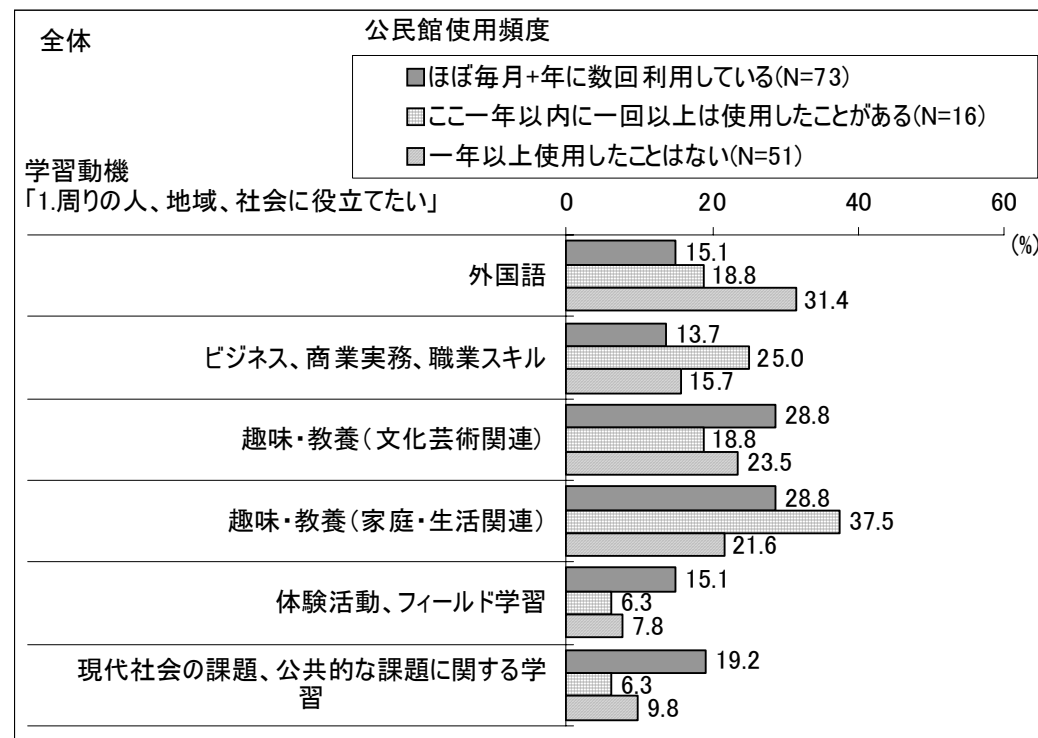
3-3 公民館利用者の学習内容・動機

学習を「周りの人、地域、社会に役立てたい」と考えている住民の公民館使用頻度別の学習内容は、右図のとおりです。

●学習を「周りの人、地域、社会に役立てたい」と考えている住民で、公民館を年に数回以上利用している住民の学習内容は、「趣味・教養（文化芸術関連）」「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く28.8%、次いで、「現代社会の課題、公共的な課題に関する学習」の19.2%でした。

●すべての住民の中で、「現代社会の課題、公共的な課題に関する学習」をしている割合は、2.8%です。学習成果を地域や社会に還元する意欲があり、公民館の使用頻度が高い住民は、現代社会の課題、公共的な課題に関する学習を行っている割合が高いことがわかりました。

●一方、公民館を使用していない住民では、「外国語」が最も多く31.4%、次いで、「趣味・教養（文化芸術関連）」の23.5%でした。

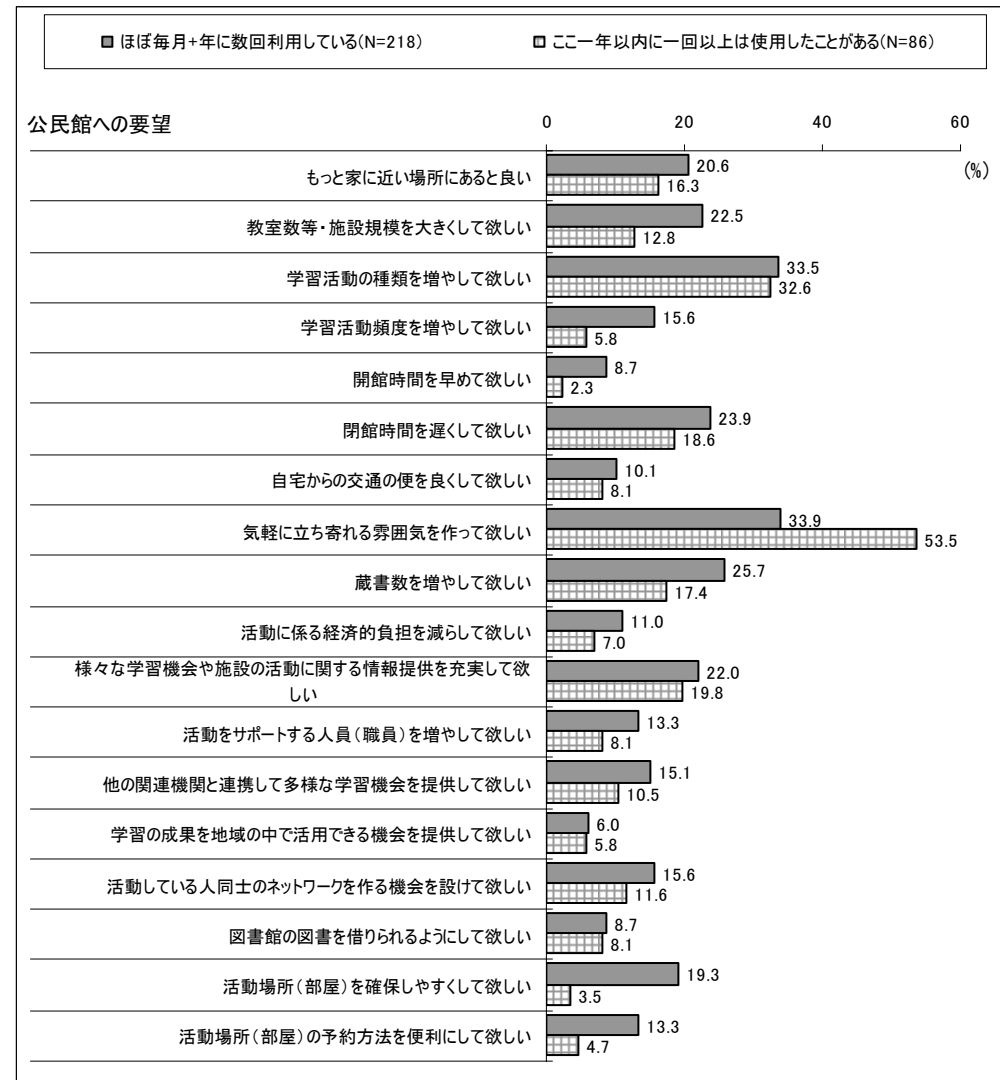


3 調査結果

3-4 公民館に対する要望（利用者）

公民館利用者の公民館に対する要望は、以下のとおりです。

- 公民館を年に数回以上使用している住民は、「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」「学習活動の種類を増やして欲しい」「蔵書数を増やして欲しい」「閉館時間を遅くして欲しい」「教室数等・施設規模を大きくして欲しい」「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」「もっと家に近い場所にあると良い」で、回答が20%以上でした。
- 公民館を年に1回程度使用している住民は、回答が20%を超えたのは「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」と回答した住民が非常に多く、53.5%でした。次に多かった回答は、「学習活動の種類を増やして欲しい」の32.6%でした。

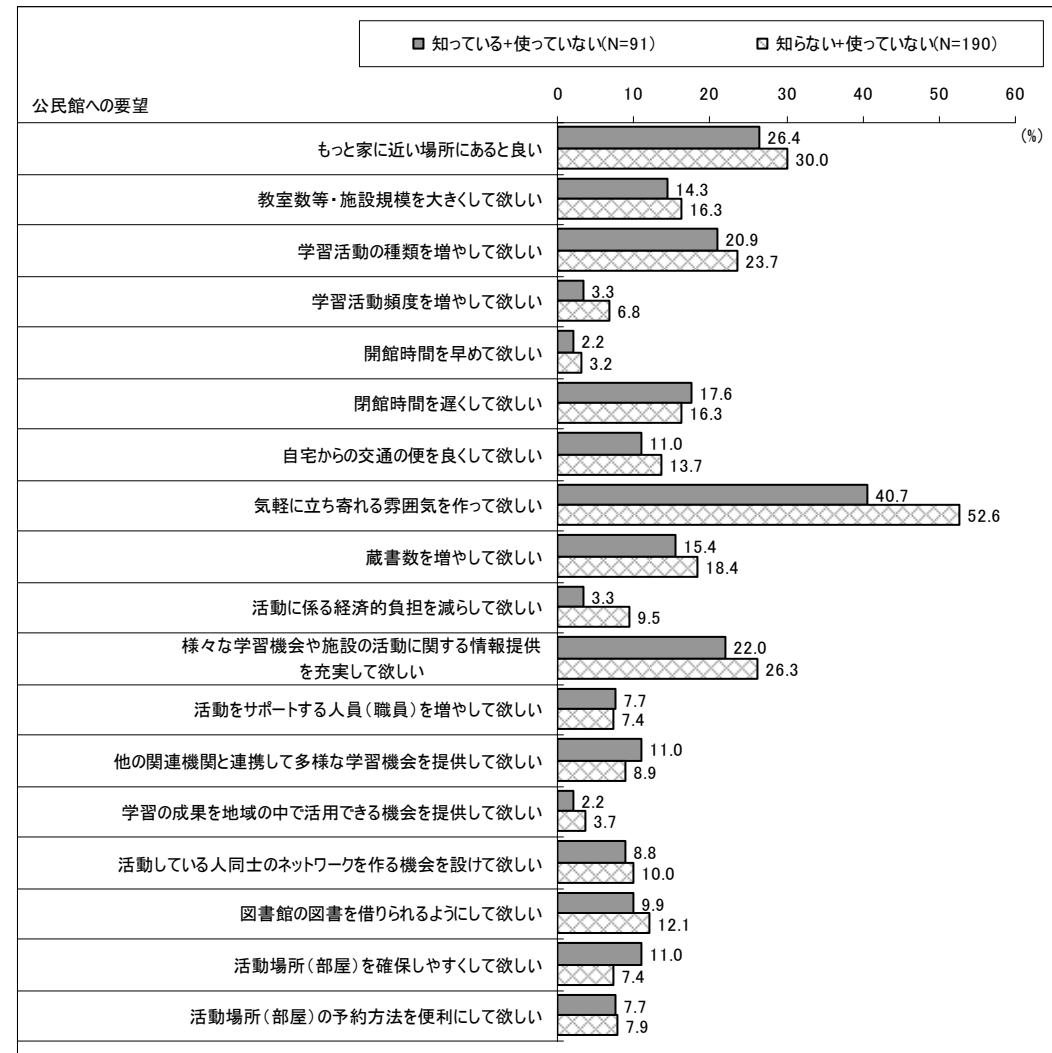


3 調査結果

3-4 公民館に対する要望（非利用者）

公民館を利用していない住民の公民館に対する要望は、以下のとおりです。

- 公民館を利用しておらず、「公民館の具体的な役割・活動内容を知っている」と回答した住民は、「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く40.7%、次いで、「もっと家に近い場所があると良い」が26.4%、「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」が22.0%でした。
- 公民館を利用しておらず、「施設の存在は知っているが、役割・活動内容は知らない」と回答した住民は、上位3項目は同じでしたが、いずれも高い割合を示しました。特に、「気軽に立ち寄れる雰囲気を作ってほしい」と回答する割合が高く、52.6%でした。



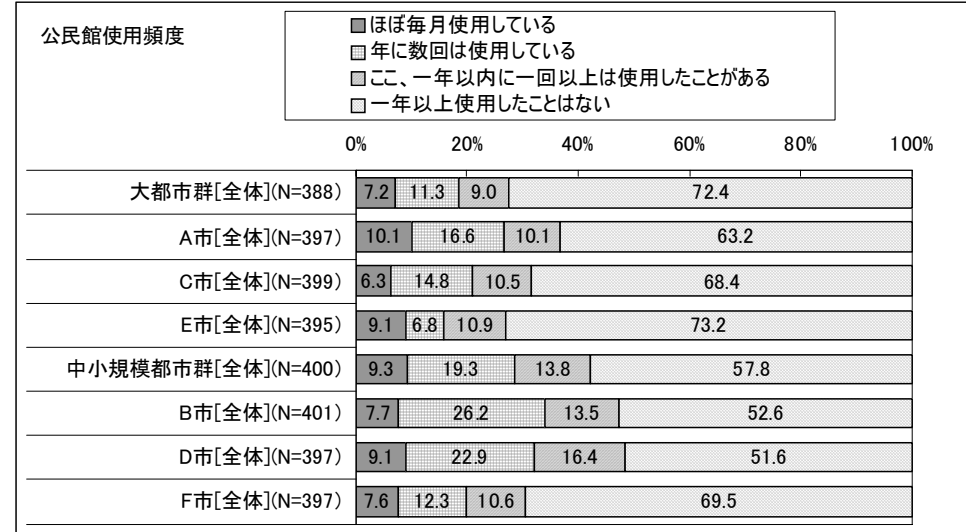
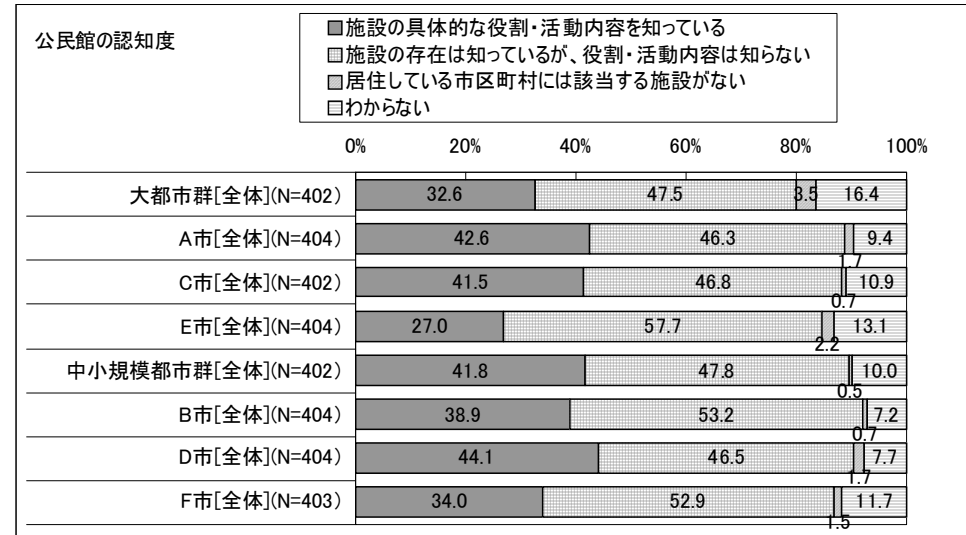
3 調査結果

(参考) 事例自治体における調査結果

特定の自治体における、公民館の認知度や使用頻度は、以下のとおりです。

事例としてA～Fの6つの自治体で、同じ調査を実施しました。事例自治体における、公民館の認知度、使用頻度は、右図のとおりです。

- 大都市群に属するA, C, E市の中で、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」と回答した割合が最も高かったのは、A市の42.6%でした。大都市群の平均（32.6%）と比較しても公民館の認知度が高い水準にあります。
- A市は、年数回以上使用している住民が26.7%であり、大都市群の平均（18.5%）と比較して高い値を示しています。
- また、事例自治体の中で、年数回以上公民館を利用している住民の割合が最も高いのはB市の33.9%で、中小規模都市群の平均（28.6%）と比較しても高い利用率となっています。



3 調査結果

(参考) 事例自治体における調査結果

公民館の活用に積極的に取り組んでいる自治体における、住民の学習内容は、以下のとおりです。

大都市群の平均と比較して、公民館の認知度が高いA市における、住民の学習内容は、右図のとおりです。

- 公民館の認知度が高いA市で、公民館を年に数回以上利用している住民の学習内容は、「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く38.7%、次いで「趣味・教養（文化芸術関連）」の30.2%でした。
- A市が属する大都市群の平均と比較すると、A市では、「趣味・教養（家庭・生活関連）」を学習する公民館利用者の割合が高く、一方、「趣味・教養（文化芸術関連）」を学習する公民館利用者の割合が低い傾向がみられました。
- 「現代社会の課題、公共的な課題に関する学習」については、A市の公民館利用者は13.2%が学習しており、大都市群の平均（5.6%）と比較して高いことがわかりました。

【A市公民館の特徴等】

- ・ 公民館数44。1館につき館長、正規職員1名、嘱託職員2名の体制で運用。
- ・ 中央公民館が市の答申、市政、現代的課題等の状況を踏まえ、毎年度指針を作成し、各公民館はそれを踏まえた事業を実施。中央公民館は各公民館の事業計画策定に関するヒアリングを実施し、一定の品質担保を図る。
- ・ 中央公民館の定める6テーマについては全公民館で主催講座を開催。
- ・ 全公民館職員参加による「プロジェクト」を実施。「プロジェクト」とはいくつかのテーマを設定し、それらについて研究、研修を実施し、情報共有を図る取組。プロジェクトの成果は公民館運営にも反映。

